

熟年俳句誌

4 2014年  
月 号

かたね



# 黒羽集

(二十八)

佐藤喜仙

初茜耳にはやさし鳥の声

冬耕や晴天残し鋤洗ふ

反省を止みめて久しや年の夜

一滴が源流となり川冴ゆる

鮫鯨のごとき口もつ雪女郎



枯野ゆく他の道なきと思ひこみ

割る音の朝の厨に寒卵

とつくりの黒セーターを着こなして

寒中や地図の旅にて時送り

鯨の群れ戻らぬ海や寒波来る

軒氷柱男は一言残しけり

夕暮れの母の徘徊寒鴉鳴く

# かさね俳句会

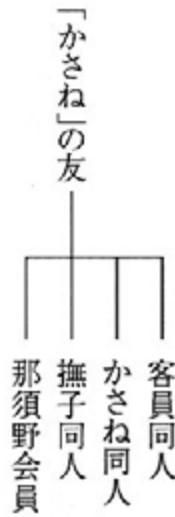
## I 事業

- 月刊俳誌「かさね」の発行
- 月例本部句会の実施  
(毎月第二金曜日)
- 月例本部吟行の実施  
(毎月第四火曜日)

## II 決算期間

一月より十二月までとする。

## III 「かさね」の構成



## IV 会費

客員同人を除く「同人」並びに「会員」の年会費は二万二千円とし、前納を原則とする。同人会費として別途徴収することはない。

## V 入会資格

男性 定年あるいは六十歳以降から俳句を始めた方  
女性 キャリア・年齢問わず

## VI 運営方針

- 吟行・句会を中心とした運営
- 同人は他の同人並びに会員を取りまとめ句会を開催することができる。
- 当会では全体集会・記念行事等は行わない。

## VII 「かさね」の発行

- 原稿締め切り 毎月十五日
- 発行日 原稿締め切りの翌々月の二日
- 投句数と掲載数
  - かさね同人(自選)六句提出、六句掲載
  - 撫子同人五句提出、五句掲載
  - 那須野会員五句提出、三〜五句掲載

## VIII 賞と授与

- 本会の賞は「撫子賞」二名、「那須野賞」若干名とし、毎年二月号で発表する。
- 賞は二月度本部句会において授与する。

## IX 昇格

毎年二月号において発表する。

## X 役員

当会運営に携わる役員については別途「かさね」誌上で発表する。

以上